

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401673		
法人名	株式会社 日進開発		
事業所名	グループホーム「庄司屋敷」		
所在地	長崎県島原市有明町湯江甲1347番地		
自己評価作成日	平成 29 年 8 月 4日	評価結果市町村受理日	平成29年10月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	平成 29年 9 月 14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

高台の広大な敷地に3ユニットが横並びに繋がっている建物です。ホームからの景色は、有明海と雲仙普賢岳を眺望でき、自然豊かな環境に恵まれて生活出来る所です。毎日、昼食前に身体を動かし、また嚙下体操を行い、誤嚥防止に努めています。また、約100mある廊下を各棟散歩を兼ね歩行訓練や散歩を行っています。またおやつの前に立ち上がり運動を実施し下肢筋力低下予防に努めています。季節に合わせた外出や3棟合同でのレクリエーションや敬老会等全員で参加する行事を行い、めりはりのある生活ができるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

島原半島北西部に位置し、対岸に熊本を見渡しなが、豊かな自然環境の中にGH庄司屋敷があります。開設15年を迎え、地域の中でのホームの存在が浸透し、老人会や子ども会等地域行事のお誘いを受けるなど地域と入居者が積極的に交流を持てるよう支援されています。家庭的な雰囲気を大事にした支援では、家族とも本人の状態の共有が頻りに図られ、家族の思いに添った支援が展開される等、家族の介護の関心の高さが窺えました。系列法人と合同で研修等の学びの機会が多く、課題は職員全体で意見を出し合いながら支援方法の確認を行い、法人全体で職員のスキルアップが図られています。職員間のチームワークもよく、それぞれが自分の役割を認識し、互いに補い合いながら働きやすい環境づくりに取り組まれています。入居者の生活に寄り添いながら笑顔を引き出し、ますます入居者や家族、地域との繋がりが期待される事業所であるといえます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名 グループホーム「庄司屋敷」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況		次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員間で声に出す等し共有し実践に繋がっている	入居者や家族が安心感を持って生活できるよう、健康管理に重点を置きながらその方の尊厳や笑顔を大事にした支援が行われています。おいしい食事と職員の観察力で、入居者の体調が維持できるよう職員全体で取り組まれています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事(運動会、ソーメン流し)への誘いがあると職員、利用者様と一緒に参加している	地域や学校行事を介して、地域住民との交流を多く持つよう取り組まれています。老人会や子ども会からの誘いを受け、一緒にそうめん流しを楽しまれたり、地区の運動会では入居者も一緒に応援で参加されました。ホームは地域との繋がりを大事に考えており、地域からも理解して頂けている様子が窺えました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	いつでも自由に見学出来るように開放し福祉体験等も受け入れている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議を行い地域の方、家族の方にも参加して頂き要望を尋ね意見交換を行いサービス向上に活かしている	会議では入居者の生活状況について話し合わせ、ホーム運営の透明性が図られています。今年度は災害時の対応について焦点を置き、避難誘導方法等について周知説明がなされました。会議を通してホームの特性や支援の理解に繋がっており、次回の避難訓練は地域からも参加協力して頂く提案を受けました。双方で関係性を深める取り組みがなされています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	情報を提供し問題解決に努めている	運営推進会議内において、行政担当者より入居者の状況や支援、対応方法等について意見交換や状況把握がなされています。今回は自然災害の議題を通し、ハザードマップや防災ラジオについて市民安全課とのやり取りがあり、協働関係を深めながら入居者の安心や安全に繋がるよう取り組まれています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修等に参加し身体拘束について勉強し身体拘束をしないケアに努めている	「身体拘束はしない」という考えを持ち、入居者の行動の理由について話し合いを持ちながら対応しています。不穏になる理由や、症状が出る時間帯を職員間で把握し、見守りを強化することで拘束のない生活が実践されてきました。入居者の状態を見ながら必要性や対応方法について話し合いがなされ、介護の統一に取り組まれています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修やセミナーで得た情報を職員間で話し合い虐待防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況		次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修やセミナーに参加し勉強し職員間で話し合っていきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に説明を行い改正があった場合は連絡し理解を求めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話連絡にて現在の生活や身体について報告し要望を尋ねたりしている	日常的に入居者や家族との関係作りを大事にし、家族と一緒に状況を話し合いながら毎日の支援に活かされています。推進会議には各棟より家族の参加があり、今回は持ち込み品の取り扱いや、家族の関わり方等意見交換がなされました。日々の暮らしに家族が関心を持ち、一緒に支える様子が窺えました。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の事を申し送り、気付いた事を話し合い月1回のミーティングで意見交換を行っている	自分が担当する棟の入居者の状態把握のみならず、他棟入居者の状態をホーム全体で状態把握に努め、誰もが対応できるよう職員間で話し合いが持たれています。法人内研修でスキルアップを図り、出された意見や課題を全体で話し合いながら、入居者が安心して生活できるよう努められています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護職員不足の為、内容報告行方がなかなか反映されない		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修へ参加しミーティングにて話し合い実践に取り組むよう努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修やセミナー意見交換の場へ積極的に参加し同業者との交流を持ちサービス向上を目指したい		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況		次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望を尋ね情報を把握し出来る限りのサービスを提供出来るよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを提供する上で家族の方の意見も取り入れ要望を叶えるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報共有を行い必要なサービスを優先に出来るように努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔話等を聞き昔の生活の知恵等を教わる等人生の大先輩として接している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の想いを家族と共有し一緒になって支えるよう努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や身内の方々の面会は大変喜ばれる為、気軽に会いに来てもらえるよう努めている	入居者が重度化し、入居者自身が外部に足を運ぶ事が困難な状況にありますが、家族や親せきの協力を得ながら友人や家族との関係が途切れないよう取り組まれています。家族との面会が入居者にとって大事な時間であることを理解し、家族へ働きかけを行いながら関係が途切れないよう努められています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	出来る事を他の方達と協力して行ってもらい生きがいをもち楽しく過ごせるよう支援します		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況		次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されても近況を尋ね必要に応じ家族の相談に乗れるよう努めている		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の関わりにより言葉や表現できない事柄を声掛けの反応や表情等から汲み取るよう努めている	入居者の表情や仕草から思いを汲み取り、入居者の言葉にならない思いに寄り添う支援に努められています。個人記録には入居者の言葉や表情の変化が記録され、家族からも情報を得ながらその方の意向に添った支援に繋がるよう取り組まれています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族にこれまでの暮らしについて生活シートを作成し会話の中で本人に尋ね把握出来るよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人との関わりや会話を理解し反映出来るよう努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ホームでの様子を家族に報告し家族の気付き、要望等を計画に取り入れている	個人記録にはケアプランの実施状況が記録され、計画の進行状況や現状把握ができるよう努められています。計画は3か月毎に評価、見直しをなされ、その方の状態を職員と家族で話し合いながら入居者にとって負担なく、本人の望む暮らしや家族の意向が汲まれた内容となっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事、水分、排泄、本人の言葉、エピソード、介護目標に添った様子等を個人記録に記入し介護計画に活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に合わせた支援を行い医療機関と連携し重症化を予防している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況		次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小中学生の福祉体験や高校生の職場体験を受け入れ地域の福祉祭りに参加している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診や往診、特変時で困った事等の相談を24時間体制で出来るように提携している	入居前のかかりつけを継続受診し、職員は体調や表情をこまめに観察しながら適切な医療を受けられるよう支援されています。食事量や歩行状態、声かけ反応等職員の観察によって体調を把握し、早々に対応できるよう努められています。家族や医師と相談しながら体調管理に重点を置き、安心して生活できるよう支援されています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週1回訪問看護師が来られ看護記録に気付いた事や健康状態を記入し相談や助言を受けている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	安心して治療出来るよう情報を提供し病院、家族と情報を交換し関係作りに努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医と連携を取り家族と相談しより良いケアに対応するよう努めている	体調の変化がある毎に家族と話し合いの機会を持ち、家族や本人の意向を確認しながらホームで対応できるぎりぎりのところまで支援されています。主治医や医療連携看護師より助言を受け対応されています。重度化し特養へ転居される入居者もおられますが、入居者本人にとって安心して過ごせる場所を家族とホーム、主治医と検討しながら支援されています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修に参加し実践力を身につけるよう努めている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年に2回消防訓練を行い地域の消防団や自治会の人にも見学、参加していただいている	年2回の火災訓練では地域住民や消防団と合同で避難訓練が実施され、避難誘導方法について周知が図られています。その時々で入居者の心身の状況も変化するため、毎回職員が避難誘導方法を確認し、各職員が体得できる体制づくりがなされています。重度化によって車椅子等移動困難者も多数入居している現状にあるため、今後ますます取り組みを深める必要があると感じられます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況		次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に声掛け介護時尊敬を念頭に置き介助を行っている	入居者と関わりを持つ際には、人生の先輩として敬意を持って関わり、言葉遣いや声かけの姿勢を意識しながら誇りや尊厳を大事にし取り組まれています。無意識に入居者や家族を傷つける言動がないか、お互いに注意声かけしながら入居者が安心して過ごせるよう対応されています。	今回の外部評価で、言葉遣いや入居者との関わり方を振り返る機会となりました。無意識に行っていた言葉かけや関わり方が相手に誤解を与えていないか、再度話し合いの機会を持ち、入居者や家族がより安心して過ごせるよう今後の取り組みに期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の気持ちを尊重出来るような声掛けを行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの状態に提供する活動を合わせ楽しく過ごせるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせて服の着替えや2ヶ月に1度のカットを行い支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好きな物を尋ね希望に添える時は作り本人に合った手伝いを頼み支援している	おいしい食事から体調を維持していきたいとの思いから、食事に重点を置き、調理方法や食事形態等入居者が無理なく食事が確保されるよう工夫されています。献立には入居者の意見が反映され、入居者ができる範囲のお手伝いや役割を担い、お互いに支え合いながら生活する様子が確認できました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の水分量を病院に尋ね一人ひとりの状態に合わせて支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	3食後の義歯洗いと、うがい等口腔ケアの介助を行い毎日ポリドントを使用しケアしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況		次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	訴えがあったら誘導を行い訴えが出来ない人には定期的にトイレに座り排泄出来るよう支援している	できるだけ排泄機能を維持できることを目標に、排泄チェック表や定時誘導を行いながら、トイレでの排泄を目標に取り組みられています。日常生活の中で動きや運動を取り入れながら、職員間でパット等の必要性を見極め、失敗なく排泄ができるよう支援されています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分量、散歩、運動を行い便秘予防に取り組んでいる。又、主治医に下剤の相談を行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ゆっくり時間をかけ入浴し体調に合わせて入浴日を変更したり要望に合わせて工夫している	本人のタイミングや希望を汲み取りながら、温度や時間配分等その方に合わせた入浴方法で支援されています。重度化し、自力で入浴できる方が少なくなっている状況にありますが、職員が2名体勢で洗身や移乗介助を行い、安心・安全にゆっくりした気分で入浴できるよう努められています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動に参加し体調に合わせて休息したり不眠が続くようであれば医師に相談しながら睡眠薬等で調整に努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の薬の目的を周知し正しく服薬できるように手渡し確認しながら行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を活かし今出来る範囲で役割や存在感を持てるように支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	四季を通して本人の希望を聞き地域との交流を持てるように計画を立て外出など支援している	入居者の身体の負担を考慮し、時期やタイミングをみて外の空気や景色を楽しめるよう支援されています。ユニット全体での外出や個別でも対応できるよう、車両や職員の体勢を整え、季節のイベントや買い物、墓参り等外出を楽しむことができるよう支援されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況		次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な方には家族と相談し希望に沿えるよう支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の訴えがあれば電話を掛け安心出来るよう支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除機や掃き掃除を行い居心地良く過ごせるようにしている。季節感を感じて頂くため壁画を毎月一緒に作成し飾り工夫している	入居者が日頃集まる共用空間は、自然な明かりが差し込み、職員の手入れによって気持ちがいい空間がつけられています。清潔に保たれた温かみのある家具は、入居者の安全に配慮された配置によって動きやすく、また入居者個々が寛げるよう配慮されています。毎月壁面飾りを入居者と共に作成し、廊下を移動しながらも季節感を感じることができる、心地よい空間が整備されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気があった利用者同士で塗り絵やパズル、テレビ等思い思いに過ごせるよう工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みのあるものや写真等を飾り安心して過ごしていただけるよう工夫している	入居者が自宅で使用していた家具や手まわり品の持ち込みがあり、家庭での生活が入居後も継続できるよう家族と一緒に検討されています。家族の写真や仏具等、入居者によってこだわりの品や思い出の深いものが並び、気持ちをゆったりしながら過ごせるよう配慮されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に動けるよう廊下等には物を置かないよう工夫し居室に表札をつけたりベッドの位置をそれぞれに合った環境づくりを心がけている		

自己評価および外部評価結果

ユニット名 A棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員間で声に出す等し共有し実践に繋げている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事(運動会、ソーメン流し)への誘いがあると職員、利用者様と一緒に参加している		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	いつでも自由に見学出来るように開放し福祉体験等も受け入れている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議を行い地域の方、家族の方にも参加して頂き要望を尋ね意見交換を行いサービス向上に活かしている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	情報を提供し問題解決に努めている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修等に参加し身体拘束について勉強し身体拘束しないケアに努めている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修やセミナーで得た情報を職員間で話し合い虐待防止に努めている		

8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修やセミナーに参加し勉強し職員間で話し合っていきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に説明を行い改正があった場合は連絡し理解を求めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話連絡にて現在の生活や身体について報告し要望を尋ねたりしている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の事を申し送り、気付いた事を話し合い月1回のミーティングで意見交換を行っている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護職員不足の為、内容報告行うがなかなか反映されない		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修へ参加しミーティングにて話し合い実践に取り組むよう努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修やセミナー意見交換の場へ積極的に参加し同業者との交流を持ちサービス向上を目指したい		

Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望を尋ね情報を把握し出来る限りのサービスを提供出来るよう努めている	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを提供する上で家族の方の意見も取り入れ要望を叶えるよう努めている	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報共有を行い必要なサービスを優先に出来るように努めている	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔話等を聞き昔の生活の知恵等を教わる等人生の大先輩として接している	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の想いを家族と共有し一緒に支えるよう努めている	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や身内の方々の面会は大変喜ばれる為、気軽に会いに来てもらえるよう努めている	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	出来る事を他の方達と協力して行ってもらう生きがいをもち楽しく過ごせるよう支援します	

22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されても近況を尋ね必要に応じ家族の相談に乗れるよう努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の関わりにより言葉や表現できない事柄を声掛けの反応や表情等から汲み取るよう努めている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族にこれまでの暮しについて生活シートを作成し会話の中で本人に尋ね把握出来るよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人との関わりや会話を理解し反映出来るよう努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ホームでの様子を家族に報告し家族の気付き、要望等を計画に取り入れている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事、水分、排泄、本人の言葉、エピソード、介護目標に添った様子等を個人記録に記入し介護計画に活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に合わせた支援を行い医療機関と連携し重症化を予防している		

29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小中学生の福祉体験や高校生の職場体験を受け入れ地域の福祉祭りに参加している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診や往診、特変時で困った事等の相談を24時間体制で出来るように提携している		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週1回訪問看護師が来られ看護記録に気付いた事や健康状態を記入し相談や助言を受けている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	安心して治療出来るよう情報を提供し病院、家族と情報を交換し関係作りに努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医と連携を取り家族と相談しより良いケアに対応するよう努めている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修に参加し実践力を身につけるよう努めている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年に2回消防訓練を行い地域の消防団や自治会の人にも見学、参加していただいている		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に声掛け介護時尊敬を念頭に置き介助を行っている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の気持ちを尊重出来るような声掛けを行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの状態に提供する活動を合わせ楽しく過ごせるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせ服の着替えや2ヶ月に1度のカットを行い支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好きな物を尋ね希望に添える時は作り本人に合った手伝いを頼み支援している		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の水分量を病院に尋ね一人ひとりの状態に合わせて支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	3食後の義歯洗いと、うがい等口腔ケアの介助を行い毎日ポリデントを使用しケアしている		

43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	訴えがあったら誘導行い訴えが出来ない人には定期的にトイレに座り排泄出来るよう支援している		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分量、散歩、運動を行い便秘予防に取り組んでいる。又、主治医に下剤の相談を行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ゆっくり時間をかけ入浴し体調に合わせて入浴日を変更したり要望に合わせて工夫している		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動に参加し体調に合わせて休息したり不眠が続くようであれば医師に相談しながら睡眠薬等で調整に努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の薬の目的を周知し正しく服薬できるように手渡し確認しながら行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を活かし今出来る範囲で役割や存在感を持てるように支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	四季を通して本人の希望を聞き地域との交流を持てるように計画を立て外出など支援している		

50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な方には家族と相談し希望に沿えるよう支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の訴えがあれば電話を掛け安心出来るよう支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除機や掃き掃除を行い居心地良く過ごせるようにしている。季節感を感じて頂くため壁画を毎月一緒に作成し飾り工夫している		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気があった利用者同士で塗り絵やパズル、テレビ等思い思いで過ごせるよう工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みのあるものや写真等を飾り安心して過ごしていただけるよう工夫している		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に動けるよう廊下等には物を置かないよう工夫し居室に表札をつけたりベッドの位置をそれぞれに合った環境づくりを心がけている		

自己評価および外部評価結果

ユニット名 B棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日頃から職員間で理念を意識し内容を理解して実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	2か月に1度の運営推進会議を軸に地域との情報交換を行い交流出来る機会について話しあっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場で認知症について説明をしたり実際に現場を見て頂けるような機会や行事への参加呼びかけを行っている、また学生の体験学習の受け入れも行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	指導を受けた事を会議にて報告したりホームへ貼りだす事で発信し情報公開してサービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	情報を公開提供しお互いに協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については職員間でも話し合いを設け理解を深めていけるよう日々勉強している、また研修会など参加するようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同じく虐待についても理解を深める為に勉強会への参加を積極的に行っている。		

8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	まだまだすべてのスタッフが理解出来ている訳ではないので勉強会や研修への参加呼びかけをし理解を深めれるように努力したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者と家族へは十分な説明をし理解を求め納得して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱設置と運営推進会議の場で家族の意見や要望を取り入れる。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的なミーティングや現場での声をくみ取り意見反映に繋げている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現場の声を上司へ報告し働きやすい環境を提供出来るように努力する事で少しでも職員が長く勤めていけるように働きかけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の能力や今後の期待と更なる成長を見据えて外部での研修などへの参加の場を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会などの研修会や病院や法人での研修会の場への参加を促す事で個人の成長と共にサービス向上へ繋がるように取り組んでいる。		

Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心、安全は私たちの理念に基づくもので常にその事を念頭に置き関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との話し合いの場も設け今後の本人との関係づくりに活かしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初見のアセスメントは慎重に行い何が必要で最も重要な事なのかを把握した対応を考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭環境の場に近づけるよう努力し関係を築けるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族への協力無しでは成り立たないので必ず家族との意見も大事にしたうえで本人との関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来る限りの対応として面会を制限せずに開放している、また要望があると外出もしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中やレクなどの時間を利用し全利用者がリビングで過ごせる時間を提供している。		

22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談があると真摯に受けて、本人の様子も時々伺うようにし関係を断ち切らないように努力している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意見を尊重した対応を出来る限り反映している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活の様子を軸に今後の生活をケア出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の様子を個々で記録し現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	意見が偏らないようにそれぞれの目線でそれぞれの意見を取り入れて現状適している介護計画を提供出来るように努力している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個別記録記入と情報共有を行い日々の実践や介護計画への意見として活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の最優先な結論を出せるように事業所としても最大限の努力をしている。		

29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	まず地域資源の把握をし地域で行われている事を理解して情報共有し本人の生活向上に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人にとっての安心出来る医療提供が出来るように家族とも相談し支援に繋げている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月4度の訪問看護師の利用をしていて情報のやり取りや相談をして適切な対応を取れるように努力している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	個人の情報公開を家族の了承のもと取っている事で瞬時にスムーズな対応が取れるようにしている、また病院との関係づくりを日頃より行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族、医療とそれぞれの関係者との情報共有を行う事で事業所での取り組みの説明をしどのように支援していくのかを話し合う。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを作成して発生時の対応に備えている。現在訓練不足な点もあり新人職員への不安もあって今後は更に実施回数を増やしていくように検討して実践に活かしたいと思っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	現状火災時の訓練を主に年2回実施している状況で地震や水害などについては実施出来ていない状況であり、他施設との情報共有を行いどのようにして実施していくのか検討し早急に対応したい。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その時や場合によっても正しい声掛けというのは変わってくるもので難しいですが尊重する意味をしっかりと理解したうえで対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思っている事や自己決定出来る様な声掛けや環境作りを提供できるように努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の業務の流れの中で職員側の都合を優先する場合もあり改めて反省する事もあるが、その方にあったペースを大事にする事も考え支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服の自己決定をする事でその人らしい格好とその人らしいおしゃれができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る手伝いや家事は行って頂き作る楽しみや食べる楽しみを共有している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	家庭的な料理や味付けの提供を心がけている、また1日に必要な摂取量は確保出来るように努力している、重要な病気をお持ちの方にはその人に合った対応を個別に行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人が出来る所までの口腔ケアはして頂き出来ない部分をお手伝いさせて頂いている。		

43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立支援に向けた対応をする為にもトイレへの誘導時間を設け個々の排泄パターンを把握していくように努力している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	環境やその日の状態にもよるが便秘予防対策はして、それぞれ主治医との相談も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間と曜日に関しては職員の都合も兼ねてはいるが本人と家族へ説明し了承も頂いている、もちろん限られた時間の中で意見は取り入れて工夫して支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自宅での過ごし方を聞き取り、しより近い状態を作り安心出来る様な環境作りをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医に説明を受けて理解に努め職員間での情報共有をしてそれぞれで把握出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々ただ単に過ごすのではなくそこに意味を持って過ごして頂く為にも本人の趣味趣向を取り入れたレクリエーションを考案するなどして過ごして頂き楽しんでもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に添える範囲であれば実施出来るように努力している、また全体での外出支援も楽しみの一環として取り入れて支援している。		

50		<p>○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>家族との相談のもと本人より希望があった場合は使えるよう支援している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>本人より電話がしたいとの希望があると家族へ相談し出来るように対応している。</p>		
52	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>常に清潔を保てるように清掃をし臭いなどにも注意して環境整備に取り組んでいる。またオブジェや利用者が作成した物を配置する事で過ごして楽しんで頂ける空間作りをしている。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>本人の意見を取り入れてどのように過ごしたいのか把握しそれぞれに合った居場所の提供をしている。</p>		
54	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>自宅より持って頂く物に制限をせずなるべく慣れ親しんだ物と生活して頂けるように工夫している。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>危険となりえる物や場所を把握し整理整頓する事で安心できなおかつ自立に向けた支援が出来るように工夫し支援介助を実践している。</p>		

自己評価および外部評価結果

ユニット名 C棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の目に入る所に貼り理念に基づいた実践を心掛けている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会、学校等からの行事の誘いがあった場合すすんで参加し交流をはかっている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域との交流をはかりより良い理解や支援の方法を地域の人々に伝え、かつ相談にのっている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービス向上をはかる為2ヶ月に1回運営推進会議を行い意見交換を行っている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当者より尋ねられたら情報提供を行いわからない事があれば相談して協力し合っている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関のコールや見守り声掛けなどによる対応を行いながら日々の暮らしを支えるよう取り組んでいる		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等に参加しまたその情報を共有し虐待が無いように注意を払っている		

8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し理解しようと努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に家族の方に説明し不安や疑問に対し納得理解されるよう十分説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し意見、要望等を聞き運営に反映出来るよう努めている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議を行い問題を解決出来るよう意見交換を行っている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各々の実績や努力等を把握し意見交換時、内容を出し合い報告するが反映されづらい		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修があった場合交替で行くようにし内容を話し合いながら実践している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等に参加し意見交換しながら情報を共有している		

Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日々、毎日の会話や表情の変化を見逃さないように理解しようと努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要求や不安な事など、どこまで対応し要望に応えられるかスタッフ間で話し合う		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況を把握し必要としているサービス支援を見極め対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩である事を忘れずに接して昔話を聞いたり知恵を借りたり敬う気持ちで接する		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には気軽に会えるよう電話をされたり家族と共になって支えるよう心掛けている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	知人が身内の面会や家族のみの面会の方もおられる為、気軽に来てもらえるよう努めている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生きがいを持って楽しく過ごせることができることは他の方々とも協力してもらえよう支援する		

22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他のサービス事業所を利用されている方にも会いに行く機会を作っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉や表現出来ない事柄を声掛けの反応や表現行動から汲み取り把握するよう努めている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	町内出身者が多い為色々な情報が入りやすい。入所時に暮しの情報を記入してもらっている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ホームでの色々な活動に参加を促し活動の中で心身や有する力等の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	随時、ホームでの様子を家族に報告し家族の要望、気づきアイデアを計画に取り入れている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事や水分、排泄、本人の言葉、エピソード介護目標にそった様子等を記入し介護計画に活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出、買い物、通院等本人の状況に応じ柔軟に取り組んでいる		

29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の小・中・高生ボランティアの受入れ。訪問美容サービスの利用をしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診・往診、特変時や困った時等、電話での相談を24時間体制で出来る様になっている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護記録に日頃の健康状態や気付いた事を記し看護師に相談または意見をもらっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院を受診し入院が決定した時点で家族に連絡し同行してもらう。常備薬や記録やサマリ一等を持参している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族同伴にて主治医の意見を聞き今後の家族の希望や施設としてどこまで対応できるかを何度も話し合っている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	わかりやすい場所に夜間の急変マニュアルを提示し日々、スタッフ間で仕事の合間に話し合っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	地域の自治会や消防団の協力をもらい消防署から年2回訓練指導を受けている AEDの使い方の講習も受けている		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けを行う際にはやさしい言葉で対応している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その時その場で表情を見ながら自己決定できる様な声掛けをしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに合わせて状態をみたり希望をきいたりして楽しい日々を暮せる様支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時や外出の時など本人の好きなものを選んで着用してもらっている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	体調や体力に合わせて手伝いをしてもらっている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量を記録し一人一人の状態に応じた食事形態で食べやすい様にしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、義歯の洗浄、歯磨き、うがいを促し細菌予防している		

43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し時間で誘導したり本人の尿意にて支援している		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、記録を取り十分な水分や食事の工夫、運動を行い必要に応じて薬を使用している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個人の希望やタイミングに応じて入浴し楽しく入浴できるように言葉かけ等、工夫し支援している		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の体調や希望に合わせて冷暖房を使用し安心して気持ち良く眠れるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や薬の内容を確認できるように保管し服薬時は本人確認を行い服用する		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの生活歴を確認し好きな事、楽しみな事をできるだけ行ってもらうように支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設や地域の事業に参加し季節のイベントや本人の希望の場所へなるべく外出できるように支援している		

50		<p>○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>希望に応じて可能な方には外出時等、お金を使用できる様支援している</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>希望される時には電話や手紙のやり取りができる様支援している</p>		
52	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節感を感じる為に壁画や飾りつけをみなさんと共に作成しています</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>テーブルを囲み歌をうたったりパズルゲームをしたりして楽しく過ごせるように工夫している</p>		
54	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居心地よくすごしていただく為に使い慣れた家具を持ち込みする等し支援している</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>表札やベッドの位置などを工夫し安心して自立した生活を送れる様に工夫している</p>		